

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

電話リレーサービス等めぐり、施設の役割について研修 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会 2017年度総会・第13回(通算第25回)大会



6月8日(木)～9日(金)、一般社団法人茨城県聴覚障害者協会(茨城県立聴覚障害者福祉センターやすらぎ)主管で、茨城県水戸駅近くのホテルレイクビュー水戸にて、2017年度総会・大会が開催されました。正会員施設52の内51施設から75人、他に賛助会員、地元の茨城県聴覚障害者協会関係加え86名の参加がありました。

総会では、2016年度に秋田県と広島県の施設が開所されたこと、障害者差別解消法の施行、合理的配慮に関するDVD「教えてタモちゃん～合理的配慮ってなに？」を配付し、好評を得ていることなどの報告がありました。2017年度事業として、電話リレーサービス事業を実施する施設が、これまでの沖縄・熊本・滋賀に加え、新しく千葉が担うこと等から、電話リレーサービス、遠隔手話サービスと情報提供施設が果たすべき役割についての研究事業を行うこと、「北海道・東北・北信越」のブロックを「北海道・東北」と「北信越」の二つのブロックに分割して6ブロックに再編成し、ブロック活動の活性化などを決めました。

総会後の大会では、「電話リレーサービス、遠隔手話サービスと聴覚障害者情報提供施設」のテーマで、厚生労働省自立振興室室長補佐の村山太郎氏、日本財団の石井靖乃氏、全難聴理事長の新谷友良氏、全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏を迎え、シンポジウムを行いました。電話リレーサービス事業は欧米・韓国等20カ国で実施され、アメリカでは電話会社が通話料に加算した財源をもとに実施するシステムになっていることの紹介がありました。日本での登録者は5,000人を超えていること、リアルタイムで自分の力で利用できるためニーズが高いこと、通常の利用の他に、職場での利用や相談支援での利用など対応方法の検討が必要、24時間対応などの課題が出されました。石野富志三郎氏が、意思疎通支援の制度全体をみていく中で、電話リレーサービス、遠隔手話サービスの位置づけ、役割、システムを考えていこうと、まとめられました。



神奈川センター所長と
なった熊谷氏と

翌日のブロック会議では、初めて北信越ブロックとして情報交換とブロック研修について協議し、電話リレーサービスをテーマに行う予定を決めました。来年度は、福島市にて開催される予定です。

センター利用の実績 5月21日～6月20日

- 来所者合計約528名
聴障者約240名、健聴者約288名
- コミュニケーション支援 108件
- ライブラリー貸出 2件4本
- 相談対応15件 ●部屋貸出37件

- ★センター運営募金・募集★
郵便振替口座；
00790 - 0 - 93002
名称；富山県聴覚障害者
センターを支える会

よろしくお願ひします。